

第40回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. “ホスピスのこころ”を追い求めて 前野 宏
2. 深めよう、広めよう、ホスピスのこころ 門脇睦子

名誉大会長講演

1. 「物語られるいのち」に寄り添う 石垣靖子

第40回記念講演

1. 死にざまこそ人生—死生学から生死学へ 柏木哲夫
2. 死の臨床の進展と日本人の死生観の変化—戦後70年の精神史に刻んだもの 柳田邦男

対談

1. 生と死の共有地—詩と死をつなぐ 谷川俊太郎・徳永 進

市民公開講座（特別講演）

1. 死と老後を考える 倉本 聡

特別講演

1. 準備のない死をどう受け入れるか 池澤夏樹
3. エンドオブライフ・ケアの倫理—よい人生と尊厳をめぐる 清水哲郎
4. 人はなぜ涙するのか—死の臨床と詩学のデュオ 方波見康雄

教育講演

1. 家族のこころに届くケア—スピリチュアルケア・グリーフケア 下稲葉かおり
2. ことほぐいのち—高齢期における看取り 村瀬孝生
3. 降りてゆくケアとしての当事者研究に学ぶ“病むこと”と“回復すること” 向谷地生良
4. 高齢者の平穏な最期を支援する医療のあり方—意思決定プロセスガイドラインが示すこと 会田薫子
5. 生きること、死ぬこと—小児科医の考え 細谷亮太
6. Whole Person Careによる臨床と教育のパラダイムシフト—心を整え、心を開き、心を込める 恒藤 暁
7. 認知症の終末期医療と介護 宮本礼子

海外招聘講演

1. 死にゆく人への最良なケアのための国際共同
(The International Collaborative for Best Care for the Dying Person) John E. Ellershaw

震災関連特別企画 岡部健先生が遺したもの

座長コメント 末永和之・清水千世

1. 言葉「治療だけでは人は治らない」 鈴木 聡
2. 岡部先生が「現場」に遺したもの 内海純子

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 3. 「解放空間」としてのタナトロジー研究会—死すべきものの連帯をもとめて | 竹之内裕文 |
| 4. 対話と物語による宗教—臨床宗教 | 金田諦應 |

熊本地震関連特別プログラム

- | | |
|--|------|
| 1. 熊本大震災の現場からの叫び—熊本地震から改めて学ぶ医療者としての心の置き所 | 前田達観 |
| 2. 熊本大震災の現場からの叫び—被災された方と共にいる時に | 加藤理人 |

第40回記念特別シンポジウム わが国の終末期医療の招来を語る—歴代の世話人代表大集合

座長コメント 志真泰夫・三枝好幸

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1. わが国の終末期医療の将来を語る | 柏木哲夫 |
| 2. 市民と協働で拓く死の臨床 | 渡辺 正 |
| 3. 世話人代表を振り返って思うこと—生死の世界で私が考えること | 末永和之 |
| 4. わが国の緩和医療および緩和ケアの将来を語る | 山崎章郎 |

シンポジウム

- | | |
|--|-------------------|
| 1. もう一度考えよう！スピリチュアルケアとは？ | 座長コメント 山崎章郎・二見典子 |
| ・私が考え実践しているスピリチュアルケア | 岡本拓也 |
| ・スピリチュアルケアに関する看護師教育と実践の取り組み | 田村恵子 |
| ・スピリチュアルケア—チャプレン（病院牧師）の立場から | 藤井理恵 |
| ・「スピリチュアル」面のケア—原点に立ち返って | 清水哲郎 |
| 2. がん治療および緩和ケア選択における意思決定支援 | 座長コメント 中谷玲二・向山雄人 |
| ・肺がん患者の意思決定をチームで支える—アドバンス・ケア・プランニングの臨床応用 | 磯部 宏 |
| ・がん治療および緩和ケア選択における意思決定支援—腫瘍内科医の立場から | 勝俣範之 |
| ・がん治療および緩和ケア選択における意思決定支援について、看護師として何をなすべきか | 矢野和美 |
| ・マサチューセッツ総合病院（MGH）の研究報告から6年経過した今、目指すべきがん医療とは | 向山雄人 |
| 3. 地域包括ケアの中でのホスピス緩和ケアの役割—地域で看取るために | 座長コメント 二ノ坂保喜・横山幸生 |
| ・「宮崎をホスピスに」から20年—がんになっても、認知症でも、1人暮らしでも安心なまちづくり | 市原美穂 |
| ・地域緩和ケアの普及に向けて—施設完結型から地域密着型の緩和ケアへ | 蘆野吉和 |
| ・コミュニティケアと多職種連携による地域看取りについて | 矢津 剛 |
| ・緩和ケア病棟の役割—看取りの場から地域に向けて | 福徳雅章 |

パネルディスカッション

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 「古い」のプロセスにある生と死—介護から見える最期の風景 | 座長コメント 油谷香織 |
| ・求められる死を語り合うことをタブー視しない社会 | 菊地雅洋 |
| ・グループホームにおける人生の謳歌 | 宮崎直人 |
| ・サービス付き高齢者向け住宅ウイステリアの場合 | 佐々木聖子 |

国際交流広場

1. 緩和ケア教育とトレーニングにおけるチャレンジー英国の展望

(Challenges in Palliative Care Education and Training a UK Perspective)

John E Ellershaw、他

企画委員会主催シンポジウム

1. 真の援助者を目指してー援助者の自己肯定感

小澤竹俊

教育研修委員会主催 2016 年度第 2 回教育研修ワークショップ

1. 死の臨床とコミュニケーション

馬場祥子

ワークショップ

1. ホスピスのこころーアートと建築の可能性

ブルース・ダーリング

1. ケアの現場におけるアートの可能性ー札幌におけるホスピタルアート活動の可能性

日野間尋子

2. ビギナーのための人生の最終段階の患者とのコミュニケーション

ー対象者と援助者自身の「今ここ」に出会う

田村里子

3. Safe Community of Inquiry と死の臨床

高橋 綾、他

セミナー

1. 人生の最終段階に関わる意思決定支援ーAdvance care planning を超えて

阿部泰之

2. 看護師と在宅介護者の燃え尽きとその予防

カール ベッカー

3. 在宅ホスピスボランティアの成功例に学ぶー地域づくり、医療・介護連携から生まれる

石口房子

4. 日本における自然葬としての樹木葬の可能性と課題

上田裕文

5. ロゴセラピー実存分析とエンドオブライフへのスピリチュアルケア

川野真司

6. 終末期の鎮静にまつわる患者さんご家族、そして医療スタッフの揺れと戸惑い

池永昌之

7. 在宅での看取りー共にいることができる訪問看護師の力

平原優美

9. スピリチュアリティを支えるリハビリテーションー理学療法士の立場から

林 邦男

10. “食”を通じたライフレビューー失敗からのスタート

相馬梨沙

特別企画 音楽の力ー音楽とお話し

1. あなたのこころの色はいのち色していますかーホスピスでの実践からのメッセージ

池田千鶴子

特別企画 音楽の力ー音の輪

1. 企画趣意

中山ヒサ子、他

特別企画 音楽の力ー音楽と音楽療法 I

1. 終末期の音楽療法ー最期のひと時を共に奏でる

北川美歩

特別企画 音楽の力ー音楽と音楽療法 II

1. 音楽の中に共に居ることーALS 患者の傍らで

中山ヒサ子

事例検討

1. 「いつになったら死ねますか？」3 年間の闘病生活に込められた非がん患者の生きる意味への問いと向き合う

秋宗美紀

2. 家族性腫瘍で父と兄を立て続けに亡くし、兄の年齢にまで成長し、体調不良の訴えが増した妹への支援を考える 小川恵理子、他
3. 患者に愛されることを求め続けた家族への関わり—家族の成長とはなにか 上村博子
4. 最期まで治療を希望する若年世代がん患者・家族への関わりと看護師の葛藤 木村聖子、他
5. 多職種間での意見の違いへの調整—医師、看護師間での意見の分かれ 松本友梨子
6. 緩和ケア病棟はどこまで家族の要望に応えるか
—CAMを最優先する夫との関わりに難渋した事例を通して 土谷映子、他
7. 死に対する恐怖から痛いと訴え、疼痛評価が困難であった1事例 林 良彦、他
8. 腫瘍増大により話せなくなった終末期患者の意思決定支援 平木紫織、他
9. 関係機関合同デスクカンファレンスからみえてきた在宅看取り推進のための課題 奥野貴史、他
10. 一般病院で同時期に看取りを迎えた親子への関わり 白鷺美妃、他
11. 認知症、せん妄かつ孤立者のがんの終末期における代行決定 田原一樹、他
12. 緩和ケア病棟における緊急入院の重要性—患者・家族の思いからの考察 堀百合子
13. 臨終の場に立ち会えなかったことを悔やみ続けるがん患者の母親—娘を失った母親の心残り 木村純子
14. 妄想のある末期患者を支えるスタッフのケア 雨森優子、他
15. ベストサポーターケアへの移行時の医療者の支援について
—在宅で最期を迎えられた事例を通して考える 田中夏江
16. 苦痛緩和が困難と感じた時の看護師の無力感との向き合い方を考える 引地美穂、他

調査報告

1. 終末期がん患者の在宅療養移行に向けた看護師による退院支援に関する文献検討
—地域包括ケアシステムの実現を見据えた支援の検討 品川祐子、他
2. 終末期看護の安全・安楽に関する論文数と記述内容の検討 木村恵美子、他
3. 急性期病院緩和ケア病棟における患者への宗教的関わり の意義
—患者と僧侶の「並ぶ関係」の発見 中原登世子、他
4. 高齢者の在宅看取りに関する実態調査—5年間の訪問看護記録より 花里陽子、他
5. 療養病床においてがんを併せもつ高齢認知症患者への看護
—入院可否判断、ケア状況、ケア困難度に焦点を当てて 井出 訓、他
6. 予後告知に関する医学生の意識—医学教育プログラムの開発に向けて 山木照子
7. 緩和ケア病棟の日常生活援助における看護師の判断と患者への対応 細萱絵里香
8. 特別養護老人ホームにおける看護職を対象とした看取りの教育プログラム試案の作成 橋本美香